

じざ作りと手伝い (石生谷町)

吾作の家では、陽あたりの悪い山べたの田んぼに、ゆ(い草)を作っていました。

ゆは、米の収穫が終わった後の十一月に苗を植え、翌年の七月に刈り取りをします。刈り取ったゆは、長さをそろえてから泥水につけ、お天とうさんで干し上げるのですが、泥水は干し上げると白くなります。泥水をつけた後から水がかかるとまだら模様になってしまい、折角した仕事もやり直しになってしまいます。にわか雨が降るうものなら大変です。

ゆ干しが始まると、吾作はおつかあ(お母さん)から、毎日、「吾作、うちのそばで遊んでなあかんで。」と、言われるのでおもしろくありません。

ある日吾作は、おつつあ(お父さん)やおつか

あが家から離れた畑へ仕事に行ったのを見定め、「こんなもんがあるで遊びに行かれんのじゃ。」

と、ゆをめがけてジョウジョウジョウと、しょんべんをかけて歩きました。

畑から帰ってきたおつつあとおつかあは、

「吾作、ゆを入れる(取り込む)ぞ。手伝え」

と、干してあるゆを集めて、からげ始めました。

途中、しょんべんがかかって、まだら模様がついているゆを見つけた時は、

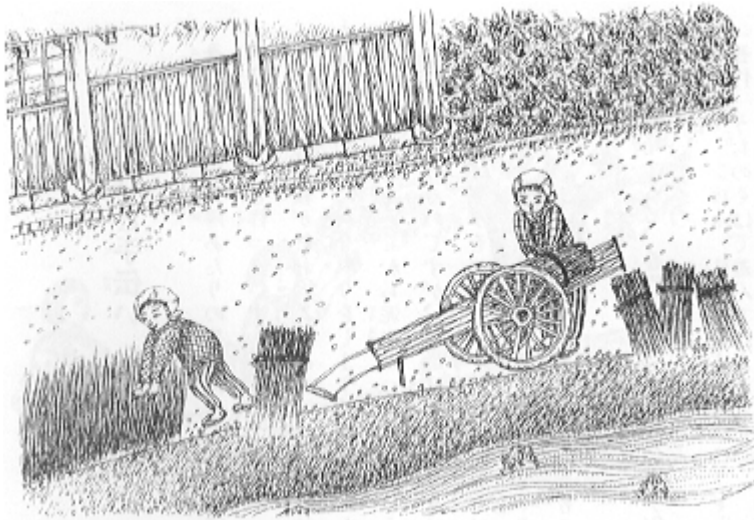
「また、隣のしょう悪犬めが、どーもならんやつちゃ。今度見つけたらどついでこましやらなあかんで。」

と、仕事を増やされたということもあり、ものすごい怒りようでした。

しょんべんをかけている時はおもしろかったのですが、二人が隣の犬をあんまり悪く言うので、さすがの吾作も、

「隣の犬、そばに来んとけばいいなあ、おつつあ

とおつかあに殺されるかも分からんぞ。」
と、後悔しました。



色々ありました、吾作の家のゆはその年も豊作で、干し上がったゆは、束（たば）にして小屋に積んでおきます。

田んぼ仕事のあいまに、積んだゆを出して、おつかあとおつかあはたこ（こぎうち機）で、こぎを打ちます。ままこぎ（こはんを入れる籠の下に敷く）や、田こぎ（雨の日に田んぼへ着て行く）や、こぎほうし（雨や雪の日にかぶるもの）を作っているのですが、この時、吾作には打ったこぎのへり（端）を編んでいく仕事を与えられます。

「吾作、ままこぎ十枚、編んでから遊びに行くんやぞ。」

と、いう具合に。

なんとか仕事をせんと遊びに行く方法はないものかと考える吾作。

遊びが好きなのは、今の子供も昔の子供も変わりません。